

第1回 岐阜市未来懇談会 意見交換の要旨 (R3.7.13開催)

1 教育・子育て

- 小さい託児所を増やせば子育て世代の利便性が高まり、子どもの数も増えるのではないかな。
- これからの人口減少の時代において、社会構造の中で子どもたちに求める資質・能力は転換していくと思われる。どのような資質・能力を求めるかについて検討すると、未来都市構想の具体的な施策部分につながるのではないかなと思う。
- 目標や夢、挑戦しようとする心を持つ子どもの数は全国の中でも最下位のレベル。これから20年後岐阜市を支える子どもたちの意識を変化させることについて喫緊の課題として対策を講じる必要がある。
- コロナは子どもたちの意識を変化させるにあたり良い意味を持っている。世の中には正解がないこと、予測不可能なことがたくさんあることをコロナが教えてくれた。今までの知識重視の社会からそうではない社会を作り上げていくという意識をもった子どもたちにしなければいけない。
- 臨時休校中、主体的に学べる子とそうでない子で格差が生まれた。従って、探求力、問題解決力を育成していくことも、今後教育の場において、大きな役割だと思う。そのためには岐阜市の中で子どもたちが活躍する場を作っていくことが大事だと思う。
- コロナ前から少子高齢化に歯止めがかからず苦しんできたが、新型コロナウイルスの蔓延により事態はさらに悪化することも考えられ、人口推移の予想も下方修正する可能性もあるのではないかな。
- 小中高校生の自殺者や女性の自殺者、児童虐待、ドメスティックバイオレンスが全国的に増加傾向にある。それは教育格差だけでなく、コロナ禍における環境の変化が原因と考えられる。学校の一斉休校やテレワークの普及などにより子どもと保護者が一緒に過ごす時間が増加し、衝突やストレスを発生させている。そして学校でも学校行事等が相次いで延期・中止になっており、子どもたちが息抜きしたり、ストレスを解消する機会が減少している。そうした状況の下で、子育てと雇用を両輪として力を入れていくことは大切だと思う。こうした取り組みが、親子に程良い距離感を生み、経済的にゆとりができ、コロナ禍で増加傾向にある問題も減少してくるのではないかなと思う。
- 「オール岐阜のまちづくり」、「シビックプライドによるまちづくり」に大いに共感した。岐阜への愛を全員育み、全員が主体的に尊重し合いながら関わっていく。そしてチャレンジや失敗を受け入れ、SOSも発することが出来る。そういった社会の環境が、子どもたちを育てやすく住みやすい岐阜に繋がっていくのではないかなと思う。
- 不登校、外国人の子ども、生活に困窮している家庭の子どもなど、様々な課題を抱えた子どもたちがいるので、これからの教育は多様な子どもたちのニーズに対応していかなければならない。特別支援のニーズを持つ子どもたちは、コロナ禍において、多くの制限を受けたので、今回の経験を教訓として継続して支援を受けられる仕組みを検討する必要があると思う。

2 福祉・医療・健康

- 最近1年程度はずっとコロナ対応に追われており、医療従事者が大変な状況になっている。今のワクチンの供給は想定していたよりも足りなくなっている。
- 新型コロナウイルスが蔓延することにより日常的な受診の控えが出てきているのが問題。実際に手術数も減っている。また、コロナにより受診控えが起き、早期受診ができていれば助かったことが手遅れになってしまうケースもある。本当はコロナ専門とそれ以外の一般的な病院とで分けることができれば良いが、市内でコロナに対する機能を備えている病院が少なく実現することは困難な状況。

○ワクチン接種に関して一人暮らしのお年寄りの場合、接種しようとしても接種場所までどのように行くかが問題となり、取り残される可能性がある。こうした状況の中で地域の方との助け合いにより無事接種が完了した事例もある。こうした地域の協力は良いことだと思う。

3 産業・労働・交流

- コロナにより今までの常識が通用しなくなった。コロナがまん延する前と比較して、コロナ後では80から90%までしか経済状況が回復しない可能性もある。だからこそ社会の変化に柔軟に対応していくのは必要。
- 岐阜市の創業案件が急増している。行政がスタートアップに力を入れている中で、金融機関としてもしっかりと協力していきたい。
- 事業者一人ではなく、自治体、金融機関、事業者等、様々なノウハウを持った方が集まって協働することが、新しい分野への挑戦を促したり、解決していくことに重要なことだと思う。
- コロナ禍で非常に厳しい状況だと思う半面、新しいことにチャレンジできる良い機会と捉えることもできる。自らが課題を見つけ、何かを生み出し、社会を変えていく、そんな時代だと思う。
- ビジネスを通してどんな岐阜市にしたいか、といったビジョンを明確にするのが良いと思う。また、新しいビジネス産業を官民連携して実現するためのビジョンも併せて明確にしていくと良いと思う。
- 創業に関連するクラウドファンディングは、新しい資金調達方法として有効ではあるが全ての案件が上手くいくわけではない。ターゲットやPR方法などを明確にしないと厳しい状況。一方で、テストマーケティングとして市場の調査を行う際に利用されることもあり、これからの伸びしろを感じる取り組み。
- 学校休業の際に影響を受けたのがパートタイマーや女性の方。仕事を辞めざるを得なくなり、収入が大きく落ちてしまっている。これからの持続可能なまちづくりのために働き手のニーズに合わせた新たな働き方を提示していくのが大切ではないか。

4 市民協働・防災・環境

- 自治会加入率が全国的に非常に低下している。岐阜市においても10年前と比較し、約8%低下した。様々な対策を行っているが、依然として改善方法が見えてこないのが現状。
- 年齢を重ね、思うように身体が動かなくなり、町内活動が続けられない方もいる。そういった方は申し訳ないという気持ちから近所付き合いが行えなくなり、孤立している。今後は年齢を重ねても活動が続けられるような町内会が必要ではないか。また例えば空いているアパートを学生寮として貸し出し、その学生の方々に地域のボランティアとして町内活動を支えてもらうのも良いのではないか。
- 自治会加入率を増加するためには、男女共同参画などのダイバーシティの視点を推進し、体質を変化させていく動きが必要ではないか。
- 地域の自治会はなくまで任意の団体なので、この資料を配ってくださいというように市役所の仕事を自治会にお願いするのは、今後再考したほうが良いのかもしれない。
- 市民自身が問題意識をもって地域活動を進めていき、その中で行政とうまく付き合う関係を持つことが大切だと思う。
- 自治会への加入については、自治会の会員が小さいことから少しずつ地域活動を行っていき、その地域にお住まいの方からの目を変化させていければ加入率を改善することも可能ではないか。例えばゴミ出しなど、お互いに助け合うという観点から始めていけば、少しずつ色んな人の地域活動への認識が変わってくると思う。
- 岐阜市には長良川や金華山等良い所がたくさんある。周辺地域と岐阜の良さをアピールして外から来る方を受け入れる動きも必要ではないかと思う。そして他県から来て近くに知り合いが

いない方が気軽に相談できる体制も必要だと思う。

- デジタル化が今後進んでも、近所の声の掛け合いという岐阜の下町の良さ、人情が育まれるようなまちづくりをより大事にしたら良いと思う。誰一人取り残されないまちづくりという方針は、言葉では簡単だが、実行するのは並大抵のことではないと思う。
- 自治会の加入率が非常に下がっているが、一方で、まちづくり協議会を設立し、地域文化の再発見や、人と人の繋がりをより良くするための活動をしている。協議会の設置が進んだのが50地区中、現在43地区まで増加している。今まで自治会が主体でやってきたことがまちづくり協議会にシフトしていく過程の中で、市からまちづくり協議会にお金を出してもらい、地域全体の仕事ができるような形になっていくと良いのではないかな。

5 (仮称) 岐阜市未来都市構想全体に関すること

- 「資料5」の3ページの将来像（目指すまちのイメージ）のイメージ図がわかりやすい。一方で、目指すまちの構成要素として、「人と人とが関わり、つながる」とある。「人」と言うと個人を想像しがちだが、法人、地域社会、地域住民も含めた関わりも重要になるため、そうした観点も含めて人と人が関わって繋がっていくことが重要。
- 誰もが住み続けたいまちにするために若者など多様な人の力が必要になる。こうした懇談会などの中で、高校生や大学生を積極的に入れて意見交換していくのも良いのではないかな。
- 「資料5」の3ページの将来像（目指すまちのイメージ）の「目指すまちを構成する要素」から「住み続けたいまち」「幸せを感じるまち」「誇りを感じるまち」の3つに派生しているが、このままでは「目指すまちを構成する要素」から繋がりがづらいのではないかなと思う。さらに、この3つは2040年にあってほしいまちのメッセージとしては弱いのではないかなと思う。もう少しわくわく感のある言葉、キャッチフレーズがあると子どもたちは魅力を感じて、岐阜市が好きになるのではないかなと思う。
- 未来懇談会の構成メンバーについては、女性の割合が低いのではないかなと思う。男女平等や未来のまちづくりについて話し合う際に、色々な立場からの思いが届かないのではないかなと思う。また、この先の意見聴取などで、これから先の担い手となる10代20代の方々に岐阜市に対する思いを話してもらう機会を次の未来懇談会までの間で設けてもらおうと良いのではないかなと思う。
- コロナの問題やコロナ後の社会の見通しがまだ想像できない中で、2040年までを見通すのは困難ではあるが、予想できない問題を解決する、変化を柔軟に捉える、人と人の繋がりを大切にするなど、2040年を目指す動きは、コロナ後の社会のあり方に繋がるのではないかなと思う。
- ワクチン接種の予約に関して、Web予約ができないという不満の声が多かった。デジタル化を進めつつ、デジタルデバイト（情報格差）にもしっかりと対応してほしい。
- 「持続可能で選ばれるまち」について、SDGsは浸透してきている。結局は、市民一人ひとりが主体的に取り組むことが必要。市民が参加したくなるような取り組みを目指してほしい。
- 人口減少、自治会の加入率の減少、公共交通利用者の減少、地域イベントの維持困難、老舗店の廃業、行政の予算縮小という問題がコロナによって改めて認識されたのではないかなと思う。その中でもテレワークやオンライン授業や、オンラインでの小児科のサービスなど、新しい形が出てきている。民間のサービスは非常に速度が速い。時間が加速しているという考えのもと、行政も対応し、支援していける形を検討してほしい。